

地形性降雨に依る

## 人工降雨システム実施計画



1998・1

〒655-0872 兵庫県神戸市垂水区塩屋町2丁目4番56号

TEL&FAX : 078-752-3753

**人工降雨システム会**

会長 脇田 正 男

# THE GROUP OF "RAIN MAKING SYSTEM"

4-56 2-CHOME SHIOYA CHIO  
TARUMI-KU KOBE  
655-0872 JAPAN

PHONE: (078) 752-3753  
F A X : (078) 752-3753

1998・1

謹啓

本日お手紙とご提案を差し上げる光栄を持ちたくぞんじます  
それは失われつつある地球環境の再生発展と、人類の明るい未来を拓く、当会の  
人工降雨（降水・降雪・避雪）システムです。

この（システム）は自然を最大限に利用し、不足部分を人工的に補い地形性降  
水を発生さす 人工降雨システム、です。

強い大量に湿った空気を含んだ風が山や山脈にぶつかると、強制的に上昇さ  
せられ冷却し山や山脈の風上側に雲が発生し、そこへ大量の湿った空気が絶え  
ず流入し上昇し、大量の雨や雪を降らせませす。

冬期の日本列島日本海側の大降雪はこれにあたりますが、このような自然現  
象として存在する地形性降水を人工的に発生さす（システム）です  
5000年前世界文明発祥のちアフリカ大陸ナイル河のほとりエジプトでこの  
地に文明を築いた先人等によって神ともあがめられた 水（降水）を求めて全国  
民の願望を込めて、ピラミッド が築造されました。

同じ大地にありながら、ナイル河の源流となる豊かな降雨に恵まれたアフリ  
カ中部のコンゴ山地やエチオピア高原と降雨に恵まれないエジプトの地との大  
きな相違点を対比して、効果的に配置されている山々の存在の有無が大量降雨  
の有無を決める大きな要因であると考え、降雨をもたらす要因となる山々を造  
ろうと決意し、ピラミッド群が築造され、遂行者として王はその 中心に埋葬さ  
れピラミッドと一心同体となり自らと国民総意で願った降雨の成功を永遠に念  
じつづけているのです。

今世界各地で砂漠面積が年々拡大を続け大規模森林伐採などにて大量の緑が  
失はれる一方大雨等による大洪水などで地球環境は悪化の一途を辿っています。

これらをくい止め更に進めて全地球上から 水 問題を解決し、先人が希求  
した5000年の時空を超え全人類が力を合わせ地球と人類の輝く未来のため  
人工降雨（降水）を成功させねばならないのです。

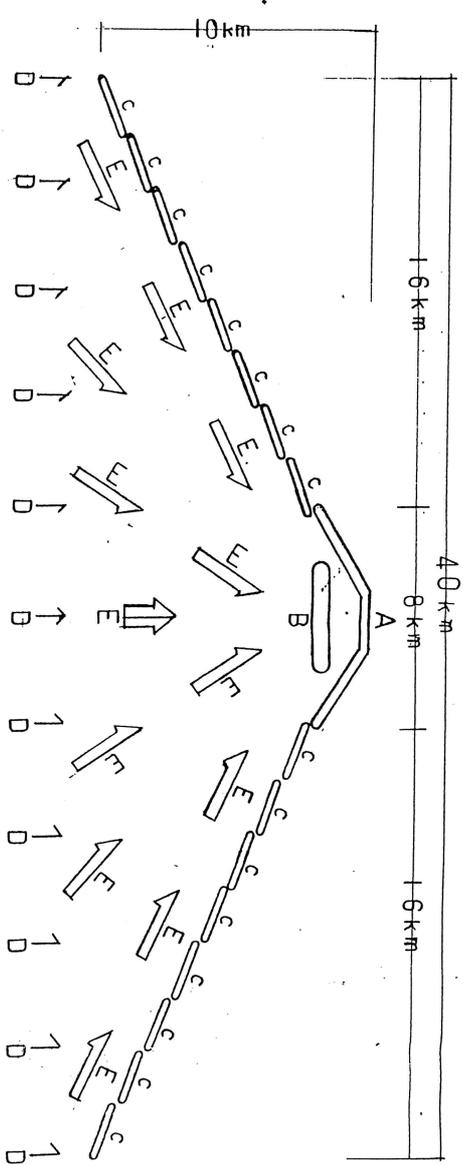
本件に付いて何分のご理解ご尽力賜りますようお願い申し上げます

敬 具

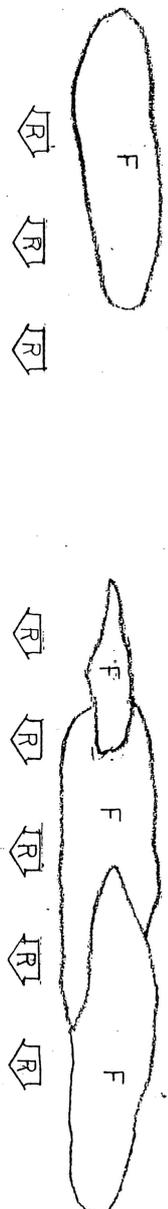
〒655-0872  
神戸市垂水区 坂屋町2丁目4-56  
TEL& FAX : (078) 752-3753  
人工降雨システム会

会長 脇田正男

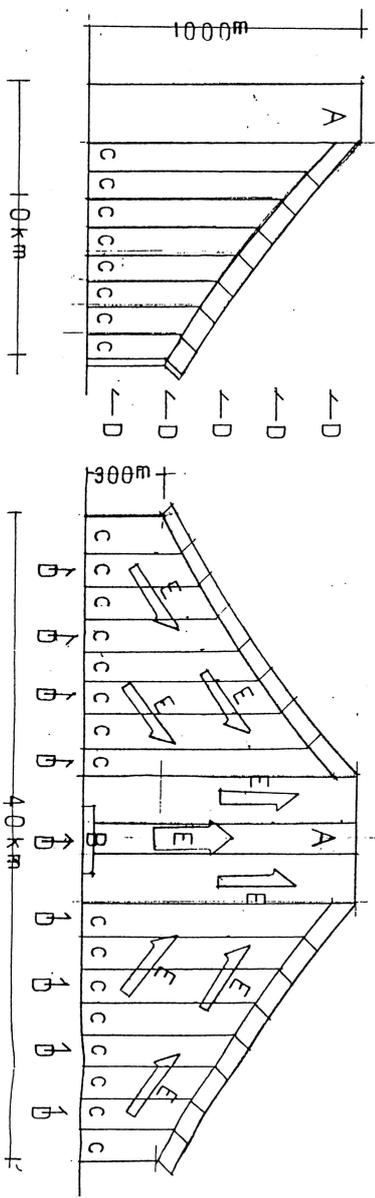
配置・平面図



横立面図



正面・立面図



- (A) = 中央集風上昇気流発生設備  
 高=1000m 長=8km 前後の壁で、湿った空気を含んだ  
 大量の自然風を集め、せき止めて絶えず上昇気流を起  
 こす。
- (B) = 冷気、暖気等も与え (E) の上昇力を補助する人工送  
 風機。
- (C) = 自然風集風設備 (受風角度可動式)  
 高=300~1000m 長=1000m 前後の壁で、湿った空気  
 を含んだ自然風を中央集風部 (A) に誘導する、  
 常時効果的集風角度を保つよう、集風壁角度は自動制  
 御可動式とする。
- (D) = 湿った空気を含んだ自然風。
- (E) = 集風された大量の湿った空気。
- (F) = (A) ~ (E) により発生した雨雲。
- (R) = (F) に大量の (D) (E) が絶え間なく吹き込み大  
 量降雨 (降水) が発生する。

多雨、多雪地域では (C) の集風壁角度調節により大  
 量の湿った空気を含んだ自然風を分散し、集中大雨、  
 洪水を防ぐ。

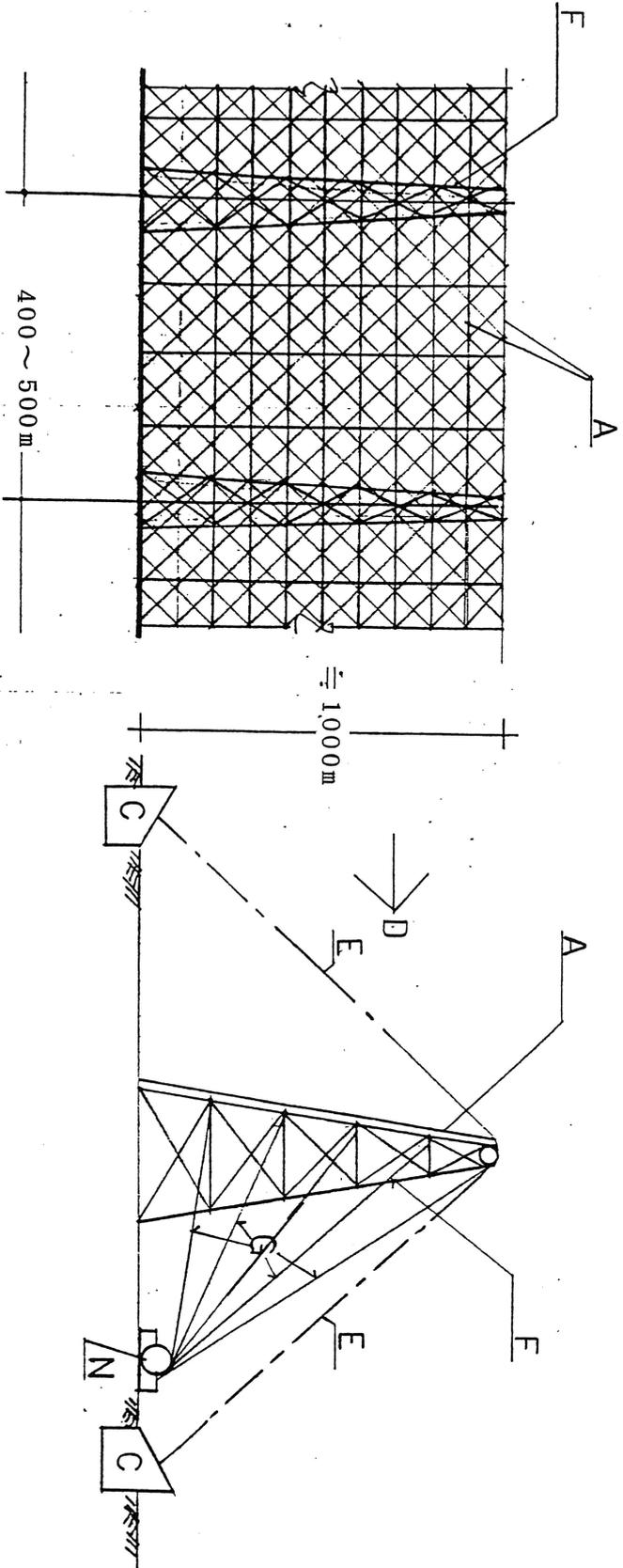
1998.1

〒655-0872  
 神戸市垂水区塩屋町2丁目4-56  
 TEL& FAX : (078) 752-3753  
 人工降雨システム会  
 会長 脇田正男

# THE GROUP OF "RAINMAKING SYSTEM"

## 人工降雨システム 実施計画図 (案)

A (C) 部 (人工降雨専用設備) その /



凡 例

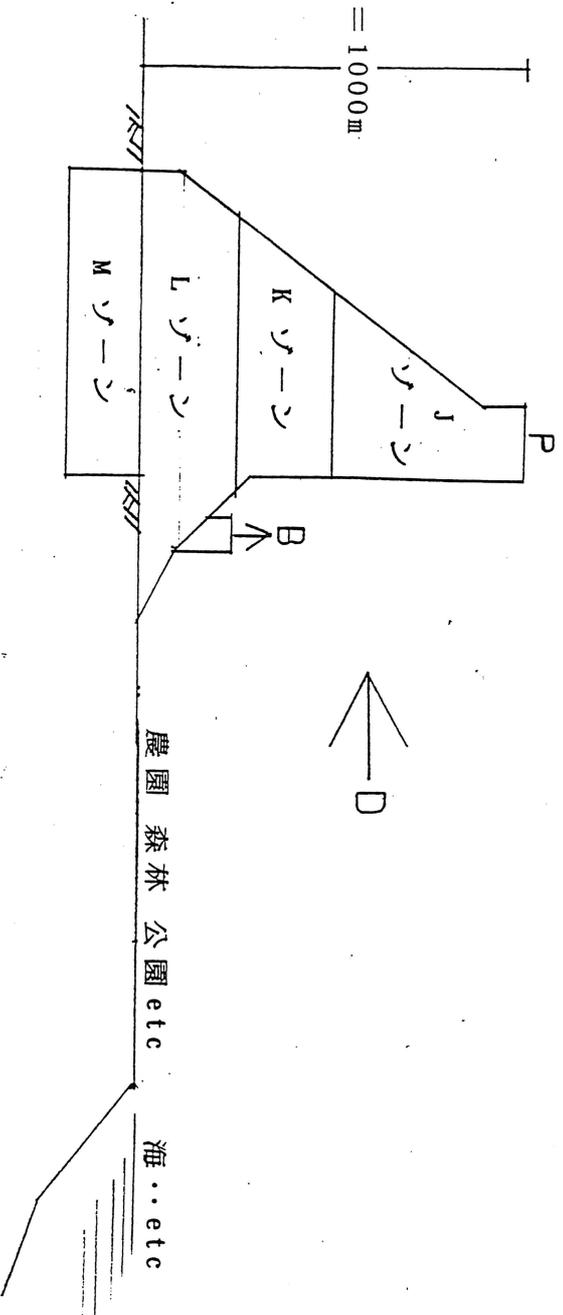
- A ≡ シート貼ワイヤロープ ネット 壁
- N ≡ ウインチ (巻上げ・巻下し)
- C ≡ アソカレインジ
- D ≡ 風向方向 (海や森林などからの混った風)
- E ≡ タワー強化支線 (ワイヤロープ)
- F ≡ タワー
- G ≡ (A) 巻上げ・巻下し用ワイヤロープ

# THE GROUP OF "RAINMAKING SYSTEM"

人工降雨システム 実施計画図 (案)

A 部 (人工降雨システム 本格建造物) その 2

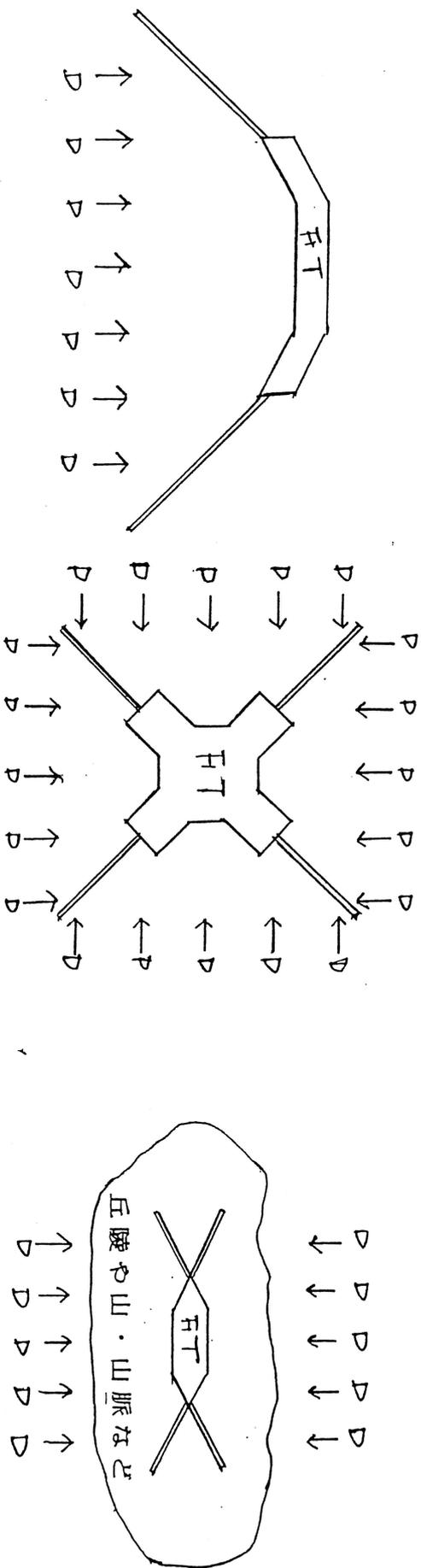
未来都市構想



- J ゾーン ≡ 住宅 寄宿舎 教会 共同住宅 ……etc
  - K ゾーン ≡ ホテル 病院 図書館 ……etc
  - L ゾーン ≡ 官庁 事務所 劇場 スーパー 商店 ……etc *資料*
  - M ゾーン ≡ 鉄道 道路 倉庫 工場 ……etc
  - B ≡ 冷気・暖気等を加え湿った空気を含んだ自然風の  
上昇力を補助する人工送風機
  - D ≡ 湿った風の方角
  - P ≡ ヘリポート 遊園地 公園 ……etc
- 延長 8 ~ 10 km

# THE GROUP OF "RAINMAKING SYSTEM"

## 未来都市構想 タイプ



曲面型

方射型

直線型

FT=未来都市

丘陵や山・山脈などがあれば  
その高さや形状を利用する

# “鉄塔山脈”で砂漠に雨

人工降雨システム会 中東諸国にも提案

【神戸】人工降雨システム会(神戸市垂水区塩屋町2の4の56、脇田正男会長、078・752・3753)は、千メートル級の鉄塔に

よる人工の、山並み・を通じて雨を降らせ、砂漠を緑野に変えるアイデアをまとめた。すでに、第二回アフリカ開発会議(昨年十月下旬、東京で開催)の参加国などに提案したが、「数カ国から関心が寄せられている」(脇田会長)という。

同システムは、幅約四十メートルにわたり鉄塔とフレキ

シブルシートによる風の遮蔽物(しゃへいぶつ)を構築、強制的に上昇気流を生じさせて雨を降らせる仕組み。中央部の八メートルに千級の鉄塔を四、五百メートル間隔で建て、その間にネットを張って風をせき止め上昇気流を起す。また、西風の十六メートル部分には風を集めやすくするため、高さ三百

メートルから千メートルの集風壁を中央部へ向かって徐々に高くなるように配列する。壁の角度は自動制御する。台地上に建設する場合は、鉄塔の高

さもその分低くなる。使用する鋼材量は膨大だが、建設費用は割安という。

現在の人工降雨は空中に凝結核になる沃化(よつか)銀などを散布しているが、降水の量、範囲ともに限りがある。そこで、強い風が山脈にぶつかると上昇気流が生まれ、本格的な雨をもたらす自然現象を、現在の技術で可能な人工構造物で実現できるようにした。今後中東地域の国々へも提案活動を行う予定。